

週刊



2025年12月発売のタマ姉スケールフィギュア登場!
WEEKLY GOOD SMILE

グッスマ

¥0
TAKE FREE

2

2025 FEB

ワンフェス限定版



よみがえれ
のヒロイン!!

COVER GIRL
向坂環

最新

グッスマ 事情に迫る!

制作過程の盛り上がり伝える
ロングインタビュー記事

特別掲載

令和でも
やっぱり

タマ姉

たまんねえ!

好評予約
受付中

ToHeart2
トウハート

解説 制作陣が語る

『こだわりポイント』



グッスマ クリエイター列伝

——さて、早速ですがまずは「ToHeart2」の思い出をお聞かせ頂けますか？

吉野 (以下吉): 2004年~2010年頃は名作が多く出ており、特に「ToHeart2」はグッスマ・フィギュア関連の商品があふれていた記憶があります。触れる機会の多さやストーリーの分かりやすさが重なり、好きなタイトルの1つになりました。

九品仏 (以下九): 唯一無二と言ってもいい特徴的なハーフアップツインテ、たまんねえと言わしめた巨乳、その完成されたビジュアルと、あどけなさとお姉御肌を併せ持つキャラクター性にお世話になりました。当時の界限はとにかく熱量が濃く、作品に触れるのが楽しかったですね。

N田 (以下N): 自分は諸先輩方のおすすめとして貸してもらった中であつたのが出会いました。自分自身の青春時代の思い出そのものに感じられます。と言っても地方出身だったので、今回の企画にあたって関東圏出身の2人から当時の話を聞くのはまた違う熱があり面白かったです。青春の追体験をさせてもらいました。

——良いですね。今回の企画はどのように始まったんでしょうか？

N: グッスマは通常だと企画部の企画者が「こういうフィギュアを作ります」と決めてスタートするんですが、今回の場合は制作部から「タマ姉を作りたい」という話がありました。このあたりの年代作品のフィギュアレポートに自分が熱心だったこともあり、作品の20周年も絡めて叶えようと思ったんです。制作部発信企画ですね。

九品仏 (以下九): 自分が制作部内で作りたいと発言したことがきっかけです。美少女ゲーム全盛期に色々とお世話になった思い出のあるキャラクターであること、フィギュア制作の主流がアナログからデジタルに移行してからはしばらくどこからも製品が出ていないこと、「ToHeart2」が発売から20周年など諸々が重なった事などもあり、タイミング的にやるなら今しかねえ!と(笑)。当時はタマ姉フィギュア

が作れたら原型師として一人前みたいなネタな風潮もあり、そういう意味でも思い出の深いキャラクターです。話をするとすぐに制作部部長が企画部部長に案を投げかけてくれて、それが更にN田さんにすぐ伝えて制作部に来てくれたんですね。



「ToHeart2」の20周年を祝してフィギュアメーカーグッドスマイルカンパニーが世に放つ 1/7 スケールフィギュア「向坂環 20th Anniversary Ver.」。その舞台裏を企画立ち上げから予約開始に至るまで担当社員3名に語ってもらったぞ!

**グッスマ原型担当
九品仏致志**
制作部所属原型師。普段は違う名前前で原型を制作しているが、今回は気持ち昂つての別名義。

**グッスマ彩色担当
吉野展弘**
制作部所属フィニッシャー。愛する作品に関わった仕事に本名を刻みたい派だったのでいつもの名義。

**グッスマ企画担当
N田**
企画部所属。表に出ないタイプの企画者のためたまただの伏字。かつてCG塗り師で生計を立てることを夢見た。

N: そうだそうだ。しかも別の人が発信者だという誤情報で伝わるという……(笑)。別の社内原型師に「タマ姉作りたいんですよね?作りたい!」と話しかけているところに「それ僕ですね」と後ろの席の九品仏さんが登場しました(笑)。

吉野 (以下吉): 僕はたまたま「タマ姉を作るんだよね」ということを耳にして「塗りたい!」と右手が勝手に上がっていました(笑)。好きだと周りに伝えたことでポーズ選定など企画の最初から関わることができたことが嬉しいですね。

九: キックオフミーティングは盛り上がりましたね~。
吉: 私物のイラスト集を持ち寄って議論しました。20年に渡る作品なので、どのあたりの絵柄を参照するかも話し合いましたね。

N: あのミーティングはめちゃくちゃ楽しかったです。そこで今回の企画のコンセプトがはっきりしました。ただフィギュアを作って売るんじゃないかと、あの頃の体験ごと届けたい!と。
九: パッケージをPC版のパッケージみたいにしようとか、グッスマオンライン特典はテレホンカードにしようとか、アイデアが溢れて止まりませんでした。

吉: スティックポスターという案もあったんですね。スティックポスターホルダーの話にまでなつて、懐かしすぎて(笑)。

——そんな案まで(笑)。パッケージや特典も凝っているというか、懐かしくなる仕様ですね。

N: あの頃のPCゲームの箱の作りを再現したい!とフィギュアでは普通使われない構造にしました。
吉: PC版と並べられるサイズにしたいという話をしたら、九品仏さんが翌日にはさっと現物を持って来てくれましたね(^ω^)

N: 通常の進行ですと予約開始のタイミングではパッケージについては何も決まっていなかったんですが、こ

れは同時に出したくて、パッケージ自体に皆さんにわくわくしてほしいと製造部やデザイン部にもたくさん協力してもらいました。

九: で、特典はやっぱテレカでしょうと(笑)。
N: 最終的にテレカ風カードになったことは少し心残りです。自分の力が足りないばかりに……。

吉: テレカの製造自体が数年前に終了してしまっていたんですね。

N: なんとか本物のテレホンカードが作れないか、日本のどこかに在庫があるんじゃないかと思って全国あちこちの印刷所さんに相談したんですが、叶えることができませんでした。

九: でもゲーム系だとまだ特典としてつけているのも目撃しているんです。あの業界の誰かが印刷用無地カードの最後の在庫を持っているのかなあ(笑)。
N: そこはまだ悔しいです。

—— WindowsXPを模した商品化発表のティザーサイト公開時はX(旧 Twitter) で話題になっていましたね。

N: ユーザーの皆さんに喜んでもらえて嬉しかったです!
九: 皆さんはギリギリ踏みましたか?踏み逃げNGです(笑)。公開後多くの反応を頂いて、自分同様にずっとタマ姉を好きな方がこんなにたくさんいることがひしひしと感じられました。

N: あまり回らないとカッコ悪いので、最初はカウタンターを5桁設定していたのですがオープン初日で2万以上回って。慌てて6桁に修正して



懐かしくも新しい王道としての美少女フィギュア・タマ姉を目指して制作しました。

もらいました。
吉: ティザーサイトです写真にもこだわりましたね~。

九: この座談会は1月に行っているのですが、まだ予約開始&本サイトはオープン前なのですが……。特設サイトも楽しんでもらいたと思っています~。

吉: 原型や塗りについてはもちろん、台座デザインの検討、サイトのお遊びまでとにかくよく3人で話し合いましたね。撮影にも3人で行きましたし。

N: 台座デザインも何案も作って印刷して見比べたり、そこから配置を調整したりと手をかけています。撮影前日まで調整が続きまして。

——次は原型制作にあたって向坂環というモチーフに対していかに向き合ったのかを伺いたいです。

九: 先程Nさんから企画コンセプトの話がありましたが、20年もの歴史があるとファンの一人一人が思い描くタマ姉像にも幅があるはずなんですよね。表現もだいたいインフレを起こしているで、当時の巨乳キャラは今の感覚で見ると普通に見えてしまう。タマ姉と聞いて当時のビジュアルイメージを想像する

方もいれば近年のソシャゲコラボのビジュアルを想像する方もいるのではないですか？

吉: 彩色もだけど、造形も落としどころに悩んでいましたよね。

九: そういった時代と共に移り変わっていった様々な絵柄をふまえた上で、今の感覚値を取り入れて進化した懐かしくも新しいTHE美少女フィギュア・向坂環を目指して制作にあたりました。

N: めちゃくちゃかわいいですよ!王道という表現が相応しいかわいさです。

——造形で力を入れたところはどこでしょう？

九: タマ姉を作り始める前に吉野さんと事前に方向性を話し合ったんですが「造形が進化してるのは当たり前で、大事なのはそれを最大限生かして彩色が一番映えるような造形にしたいよね」という内容で着地しました。それをふまえて、向坂環という強烈なキャラクターを象徴する髪の毛の造形にはそれなりに時間がかかりましたね。髪の毛の裏面に青色のグラデーションを入れる事はあらかじめ話し合った際に案が出ていたので、吉野さんにも意見を聞きながら情報量が上がるように面の角度の調整を細かく行っていたんですが、3D出力品を

見ても納得がいかなかったのが最終手段として手加工でディテールの追加をして情報量を上げることにしました。面の向きや線の抜き方ひとつで彩色時の印象が大きく変わるのここは特に気を付けて作っています。そのほかには甘露樹氏の描くぶにっとした肌の柔らかさ、パキパキとした制服のシワの入り方、それでいてスカートは風でふわっと柔らかく翻る表現だったり、イラストの特徴的な表現はできるだけ再現したつもりです。

吉: 「ToHeart2」らしいなんというかもちょっとした肌の質感の表現でも良いと思っています。頬のぶにっとした感じとか。

九: そう言ってもらえて良かったです。その点は20年前から変わらぬ魅力的な要素として捉えています。そこに現代のフィギュアの感覚値として、太腿周りの肉感をすこし増させてもらいました(笑)。

N: やわらかさを感じられる最高の造形です!
九: 美少女フィギュアって造形の話に注目されがちですが、これを機に平成と令和のフィギュア造形と彩色表現幅の違いに改めて注目してほしいです。

N: 「令和っぽく塗ろう」という話で一苦労したの



重視しています。カメラマンさんのお力で写真も美しい夢のような仕上がりました!

吉: N田さん、撮った写真を見て「えっ、かわいいなあ」とか口に出っていましたね(笑)。

N: 社内でもかわいいと評判でした!彩色も本当にギリギリまで調整してしてくれたので、撮影の途中で虚脱状態でしたよね。数ヶ月張り詰めていたかと思えます。……吉野さんの熱量を象徴するあのエピソード話していいですか? (笑)。できあがった彩色見本を確認していたら、他のスタッフが「今度グレージキットをグッスマから出すという案があって、このタマ姉ってぴったりじゃない?」と言ったんです。確かに言う通りだなと思って自分は「いいですね」と頷いていたら、横で黙っていた吉野さんが……

吉: すみません、このタマ姉だけは自分以外に塗ってほしくないですって言っちゃいました。

九: それはダメでしょ!(笑)

N: この商品に懸ける思いは十分知っているつもりでしたが、そこまでだったのか!と感じ入ってしまった。気持ちは受け取りましたよ!(笑)。
九: 社内監修で安藝会長からのダメ出しが激しかったの思い出です。



は当然ながら吉野さんですね(笑)。

——というのを受けて、彩色についてお聞かせください。
九: 彩色についてはとにかく鮮やかなイラストの再現性に重きを置いて作り上げていきました。随分前からどうやって鮮やかなイラストを真似できるか、画面で見る綺麗さをどうやってフィギュアで再現できるかという事をずっと考えながら何年もフィギュアを作ってきました。今回改めて向坂環を作る上で綺麗さはもちろんの事、インパットの強さには特にこだわって作り上げていきました。

N: 見に行く度に色が変わっている試行錯誤ぶりでした。「吉野さんの自由研究」と呼んでいたんですが、そもそも夏季休暇の間に一度途中原型に色を塗ってきていたのも情熱的でしたね。

九: ああでもないこうでもないとなってほぼ塗り直しに近いこともしていましたね。僕も過去一注文をつまかっけしてしまいましたが……(笑)。

吉: 特に髪は納得いく表現になるまでとにかく時間がかかりました。面相と合わせて最後まで手を入れた部分でもあります。タマ姉と言えば赤い髪、赤い髪と言えばタマ姉というぐらい印象に残る部分です。そこは当時の印象から崩さず、新しいイラストの質感を取り入れ仕上げています。特に内側に入る影に青味を入れて情報量を上げようという試みでした。全体に青味を入れてと暗くなりすぎたので、どの方向から見てもフィギュアが綺麗

に見えるよう入れ方を工夫しています。

N: 企画スタート時点から青味の表現に重きを置いて作り上げていた部分で、とても綺麗な表現になりましたね!

吉: あとは細部まで注目してほしいです。靴の内側も皮の色味が違うので塗分けしていますし、スカート裏側はサテン生地ですりこみしているイメージで塗装しています。イラストでは見えない部分は実際の制服や小物を参考にして塗っています。

N: 造形自体も小物まで丁寧に作られていますよね。そこに執拗なまでの彩色が……(笑)。

九: ローファーのソールの層まで表現してくるとは思っていなかったです(笑)。

吉: 写真に写るか心配していましたがちゃんと見え

ました。

——商品写真撮影にも3人で行ったそうですね。

九: 明確にこういう方向性にしたいというイメージがあったので、まずどういう写真にするかも考えを共有して立ち合いました。

N: 「造形のシルエットと特徴的な赤い配色や髪の毛のグラデーションの美しさをユーザーに見せる」という点です。目指す方向が3人で合っていたのでスムーズでした。フィギュア自体を際立たせることを

それぞれコメントを頂けますか?

吉: キャクターへの好きな想いで大切にすべきだと改めて感じる事ができたフィギュアです。キャラクターを好きな人同士が情報を出し合って理想の作品を作ることが非常にいい刺激になったし、現段階での最適解が出せたと感じています!ただフィギュアをお届けするのではなく、パッケージや色々な部分でタマ姉のフィギュアを出せるお祭り的な楽しさをみなさんと共有したいです!

九: 小細工抜きの正統派美少女フィギュアとして制作しました。ファンの方々はどう受け止めてもらえるのかドキドキしています。こちらから共有したい想いは全て造形に乗せてありますので、細かい理屈とか抜きにリビドーを感じ取って頂けたらもうそれだけで原型師冥利に尽きます。よろしく頼むぞ!マイブラザー!&マイシスター!

N: 意外なことに今までグッスマがタマ姉のスケールフィギュアを出したことはなかったんです。グッスマが!?って思いませんか?そんなグッスマが満を持して令和にお届けするタマ姉、是非お見逃しなく!

九: グッスマがそこまで熱量でお届けしている逸品ということですね。誌面に限りもありますので、最後

タマ姉、たまんねえ!

俺たちのタマ姉が グッズマから登場!



こう せかたまき
向坂環

主人公より一つ年上。
大人びた感じだが、まだイタズラっぽい所など子どものような一面を残す。面倒見が良く、主人公に対し姉のように振る舞い、可愛がる。スポーツ、勉強、家事など苦手なものはなく、どれもトップレベル。家がその土地の旧家で、金持ちらしい。

細部までこだわり抜いた
ディテール!

春風を纏った瞬間を切り取ったかのような美しい造形。服のシワは勿論、カバンや靴などの小物やスカートの裏地にまで抜かりなし!

Forever
タマ姉♡

付属品も充実♡



ゲーム箱風パッケージ



特典はテレカ風!?

ご予約受付中♡

特設サイトは
こちらから♡



向坂環 20th Anniversary Ver.

■プラスチック製 塗装済完成品・1/7スケール・全高:230mm ■価格:21,800円(税込)
■原型制作:九品仏致志 彩色:吉野展弘 ■発売・販売元:株式会社グッドスマイルカンパニー

©2004 AQUAPLUS
NOT FOR SALE

AQUAPLUS

GOOD SMILE
COMPANY